

わんぱくアドベンチャークラブ

8月講座活動報告

2町村交流ネイチャーアドベンチャー

感想一覧

- ・標茶町の人とたくさん話せたり、交流できたし、高校生とも会えて良かったです。(5年生)
- ・この3日間を大切にできたり、女子のみんなとたくさん話せたから楽しかった。(5年生)
- ・今回の講座で、標茶町の子と仲良くできたし、色々な体験ができたので良かったです。(6年生)
- ・去年の時よりも、もっともーっと楽しかったです。標茶町の子と仲良く出来ました。(6年生)
- ・標茶の人と話したり、遊んだりしてたくさんの思い出を作れた3日間だった。(6年生)

編集後記

夏休み期間を利用して、ネイパル厚岸で、標茶町の子どもたちと
共同生活や体験活動などを行い、友達づくりや交流を深めました。

令和4年度の第5回目の活動は、鶴居村7名、標茶町21名の合計28名が参加してくれました。3年振りに北海道立青少年体験活動施設ネイパル厚岸を利用して、2泊3日の行程で開催することができました。担当の私自身も、3年前からずっと楽しみにしていた事業の1つでした。

初日は、とても緊張している様子でしたが、標茶町の高中生スタッフのアイスブレイク（伝言ゲーム、命令ゲームなど）で、緊張も解れて、班員とも仲良く楽しく活動できるようになりました。

創作活動では、空き缶を活用したランタンづくり、輪切りの木を使ったバグタグを行いました。自分でアイデアや考えを出しながら、班員同士で話し合いをしながら、世界に一つだけの素敵な作品仕上がりしました。後片付けも、班員で力を合わせてやっていたので、短い期間でしたが頼もしさや成長を感じられた瞬間でした。また、フォトラリーでは、地図と問題が渡され、問題の建物などを見つけながら、厚岸町の街中を散策しました。歩き疲れたと思いますが、最後まであきらめずに、全部の班が目的地まで辿り着くことができました。とても良く頑張りました！

班長の頑張りだけではなく、班員をサポートしている人もいて、歩くスピードを合わせたり、疲れたときにやる気の出る声掛けをしていて、相手を思いやることや班で協力することがしっかりと出来ていました。

交流事業のメインである交流会では、班の中で15分程度の出し物を企画しました。クイズ、なぞなぞや劇など班それぞれの個性がしっかり出ていて、とても楽しんでいました。また、交流会では、キャンプファイヤーと空き缶ランタンを使って広場のライトアップを行い、とても美しく幻想的な風景でした。

今回の5名の参加者は、一人ひとりが自分の役割をしっかりと考えて、自ら気付いて行動していました。また、期間中の3つの約束である、挨拶をすること、相手を思いやる行動すること、班で協力することが、3日間通して出来ていました。コロナ禍で、他の学校の子どもたちと交流する機会が失われてしまいました。しかし、今回こうして、標茶町の子どもたちと共同生活や体験活動を通して、友達づくりや交流を深めることが出来たことは、子どもたちにとって貴重な経験になったと思います。今回参加した標茶町の子どもたちとは、またどこかで会う機会があると思います。その時には、今日の思い出を笑いながら語り合いましょう。(編集者 吉田 綾稀)

活動の様子



